

## プロジェクト 2023-1

多文化共生社会における外国にルーツを持つ子育て世代への包括支援推進のための実践研究 一健やかな妊娠・出産・子育て期を目指した文化に配慮した「やさしい日本語」研修プログラム開発一

### 研究体制

研究リーダー: 齋藤 恵子 (看護学科 准教授)

研究メンバー: 浅井 宏美(看護学科 准教授)、森 美紀(看護学科 准教授)、千葉 真希子(看護学科 助教)、山口乃生子(看護学科 教授)、森 正樹(共通教育科 教授)、林 恵津子(社会福祉子ども学科 教授)

学外協力者: 武田 裕子(順天堂大学大学院医学研究科医学教育学 教授・医療×「やさしい日本語」研究会代表)、王 麗華(大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科 教授)、奥村 裕子(一般社団法人多文化共生コスモ越谷/理事)、仙部 孝一(武里日本語教室/事務局)

### 1. 研究背景

日本では、190ヶ国以上の国・地域を母国とする外国人住民が暮らしており、父母共に母国が外国である子の出生数は1万人を超えて推移している。妊娠、出産、育児期において、外国人女性は日本という異文化環境の中で、言葉が通じないために、孤独感や疎外感、不安感、危機感を持っており、母国の文化的な信念によって、異文化間の葛藤やジレンマなどの困難を経験していることが報告されている。多文化共生社会において、妊娠・出産・育児期の日本語を母語としない外国にルーツをもつ住民に対する包括支援は急務である。

「やさしい日本語」でコミュニケーションすることにより、「ことばの壁」、「こころの壁」を取り去ることが期待され、保健医療従事者と外国人住民の双方において有用であると考えられる。看護分野における「やさしい日本語」の導入が行われつつあるが、妊娠・出産・育児期に着目した研修プログラム開発と評価検討が必要である。

### 2. 研究目的

本プロジェクトは多文化共生社会における外国にルーツを持つ子育て世代への包括支援推進のための第一歩として、健やかな妊娠・出産・産後を目指して、文化に配慮した「やさしい日本語」研修プログラム開発を行う。本プロジェクトにより、外国にルーツを持つ子育てへの健やかな妊娠・出産・子育て期を目指した包括支援の促進に繋げたい。

### 3. 研究概要

健やかな妊娠・出産・子育て期を目指した文化に配慮した「やさしい日本語」研修プログラム開発は次の3ステップにより行う。

- 1) 保健医療従事者(看護師)調査研究(日本語を母語としない人々へ妊娠・出産・育児期の支援を行う保健医療福祉従事者が経験する困難と対処)
- 2) 外国人住民ニーズ調査研究(妊娠・出産・産後における日本語を母語としない外国人住民の感じる困難と対処)
- 3) 「やさしい日本語」研修実施と評価、有用性の検討